埼玉大学文化科学研究科修士課程学位論文・特定課題研究成果要旨

研究専攻（専門領域）	文化環境研究専攻（考古学）	学籍番号	08CS017
氏名　吉田　幸一	ローマ字　YOSHIDA　Koichi	国籍（留学生）	

修士学位論文名	中世武蔵国における居館内部の構造についての研究		
提出年月日	2010 年 1 月 12 日	指導教員	高久　健二
体裁（　　）	31 頁（1 頁文字数 1600 文字）	言語	日本語
別冊添付資料等	図版 77 頁、付表 1 頁		
キーワード	中世　武士　居館　空間構造		

本論文は、武士達の居館には、彼らの持っていた価値観が顕在化していると仮説を立て、居館の内部の構造を分析することでその一端を明らかにすることを目的としている。このことを考察するため、中世東国の中でも武士達の活躍の際立つ地域である武蔵国の 10 か所の居館を資料として用い、居館の外部構造に意識しつつ、内部構造について分析を行った。

居館については、その形態分類や軍事的な防御機能がどれだけ優れているかという研究が多くなされてきた。また、先行研究の中では、内部構造について言及しているものもあるが、文書や絵図の残されていない武蔵国内の中小規模の居館については、居館内部の構造について検討されることは少なかった。このことから本論では、内部の遺構配置に着目して分析を行った。

居館の外部構造である立地を分析することから、居館の主と支配下地域内で生活している人々との関連性について、居館主は水田や用水等の施設と居館そのものの維持を支配下の民衆に協力させることで、民衆をその支配にとりこんでいることを確認した。

そして、立地居館内部の遺構配置から、生活空間、死を意識する空間、空白地という三つの空間によって居館は成立していることを確認し、居館とは、土地を区画し、その区画内部に外部への視覚効果を考慮に入れた生活空間の建物と、墓や板碑、社や堂を設けた死を意識する空間、遺構を伴わない空白地という三つの空間を持ち、内部からは良好な視界と景観をもつように努めた施設であることを確認した。

そして、この施設は、その主の生活の場であるとともに、その生活空間内で、主の所有する領地を治める為の儀礼や、主の身体・精神を向上させる活動を行う内部機能と、水田や用水等の生産基盤を整備・管理するセンターとして、神仏への祈願と支配下の民衆へ指導を行い、税であるコメを徴収するという外部機能を持ったシステムの中に民衆を取り込むための装置であることに言及した。

古代律令制の崩壊とともに 10 世紀の末頃の落川・一の宮遺跡に出現し出現した居館から、戦国期 16 世紀後半の八王子城落城を経て 17 世紀中に多摩ニュータウン No.107 遺跡の居館が廃棄されるころには居館を介した地域支配のシステムは崩壊し、中世が終焉を迎えたものと思われる。

その原因として、中世の集落には、散村から集村、そして都市化という大きな流れがあり、この流れのなかで、居館というシステムが受け入れられなくなったものと考える。居館というシステムに導入されることが人々の価値判断のなかで相対的に低くなり、新しい価値を見出したときに近世的な世界が始まるといえると結論づけた。